

市街地における再整備を通じた道路空間の質的向上



防災・メンテナンス基盤研究センター
 緑化生態研究室 研究官 (博士(工学)) 西村 亮彦 室長 栗原 正夫

(キーワード) 道路空間の再編、景観形成、都市再生、公共空間、市街地と郊外

4.

持続可能で活力ある国土・地域の形成

1. はじめに

近年、一体的な景観形成や地域振興の観点から、沿道の施設や公共交通機関等と連携した、公共空間としての道路の機能向上が求められている。こうした中、空間の再配分や沿道の修景を伴う道路の再整備が進められるとともに、道路空間を利用した多様なサービス、地域活動が全国各地で展開されてきた。

しかしながら、所管を横断する複数事業の連携や、地域活動を景観形成へと効果的に結び付ける道路事業の枠組みについては、十分な検証が行われていない。また、道路空間の再整備が、景観形成や環境改善、地域振興にもたらす効果についても、そのプロセスを十分に理解する必要がある。そこで、多様化するニーズに対応した道路空間の再整備について、その手法と効果の整理・分析に取り組んでいる。

2. 事例の収集と類型化

2014年度は、全国から80事例を選定し、各事例に関する情報収集に取り組んだ。選定にあたり、計画中・事業中のもも含め、比較的新しい事業を対象とすること（竣工から10年以下のもの60件）、既に好事例として社会的評価を得ている事業に加え、周知されていない良好な事例を発掘することを心掛けた。観光地の顔となる道路、賑わい創出の核・軸となる道路、都市の骨格を形成する道路、ネットワークを形成する道路、新型交通手段の基盤となる道路、水と緑を育む道路、再開発の軸となる道路等をキーワードに、整備の手法と効果を整理した。

廃道、廃線、道路付替え、区画整理等を通じた土地利用の転換、地下道や歩行者デッキの整備を通じた道路の立体的利用等、今までにない道路空間の形態を可能にする、土地利用上の工夫が見られた。デザイン面でも、様々な形式を組み合わせた無電柱化、

舗装の素材やパターンを利用した歩車共存、仮設物や天蓋設備を利用した道路の広場化等、新たな手法が生み出されている。また、特例道路占用制度や兼用工作物管理協定を利用した、オープンカフェやイベント等のソフト事業、道路空間と一体となった大型複合施設の整備等、道路整備をまちの賑わい創出や環境改善に繋ぐための、様々な官民連携の取り組みが明らかになっている。

3. 今後の展開

現在、収集した80事例について、各事業の概要をまとめた事例集の作成に取り組んでいる。自治体や研究機関、コンサル等から広く参照される資料として、国総研HPで公開することを検討している。

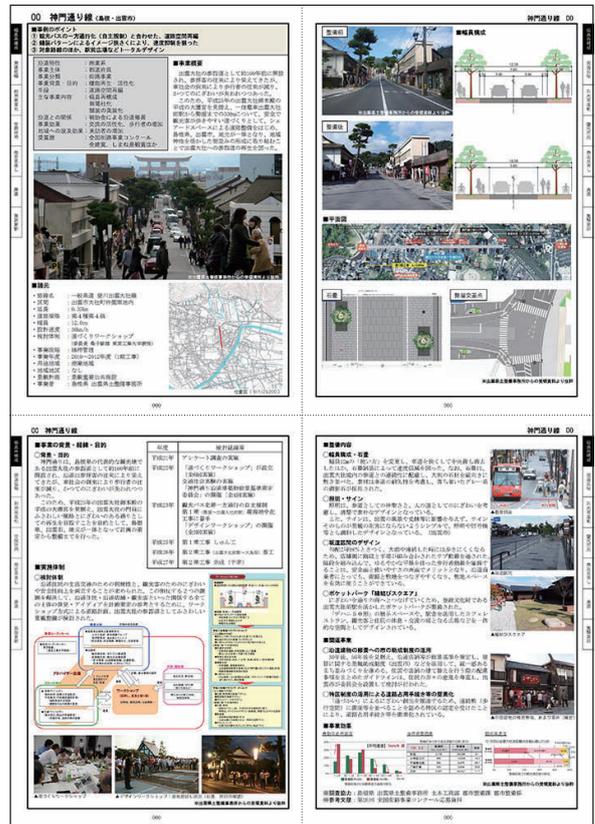


図 事例集のイメージ (例：出雲・神門通り)